

平成19年度 傾斜的研究費 (特定) (全学分) (戦略分・公募分) 研究報告書

研究費区分

(公募分) ①都市形成に関わる研究

研究代表者 所属	都市教養学部人文・社会系	フリガナ	いぬい あきお	職	教授
	都市教養学部人文・社会系	研究代表者氏名	乾 彰夫		
研究分担者所 属	都市教養学部人文・社会系	研究分担者氏名	大串隆吉	職	教授
	都市教養学部人文・社会系		岩崎正吾		教授
	都市教養学部人文・社会系		浜谷直人		教授
	都市教養学部人文・社会系		大田直子		教授
	都市教養学部人文・社会系		野元弘幸		准教授
	都市教養学部人文・社会系		小国喜弘		准教授
	都市教養学部人文・社会系		荒井文昭		助教
	都市教養学部人文・社会系		深見匡		助教

研究課題名	「世界都市」東京における若者の〈学校から雇用へ〉の移行過程に関する研究
研究実績の概要 (600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)	
<p>本研究は、研究代表者が2002年度から大学院のゼミで行なってきた二つの都立高校（多摩地区にある普通科「中位校」と東部にある普通科「底辺校」）の2003年3月卒業者を対象にした4年間の継続追跡調査を基盤にしている。これまでに、高校3年時、卒業1年目、卒業3年目の3回の聴き取り調査をそれぞれおこなってきた。本研究期間中には以下の調査・研究及び研究成果公表等をおこなった。①過去の調査データを対象者のもつネットワークや社会関係資本などに焦点づけて再分析し、そのまとめを日本教育学会大会、日本教育学会英文誌上などで発表した。②高校卒業5年後の追跡調査を、卒業1年目・3年目調査で補足できた対象者を対象に実施し、前回の聴き取り調査以降の就労・就学の状況や生活状況、将来展望などについてそれぞれ約1~2時間程度の聴き取りをおこなった。一部に連絡不能・調査拒否などもあったが、海外留学中の者を含め、32名を補足できた。これは当初の目標（30名）を上回る結果であった。現在、聴き取り記録の作成、及び分析中であり、その結果については、2008年度中に公表予定である。③研究代表者・分担者による海外（イギリス・ドイツ・ロシア等）の若年者の学校から仕事への移行やそれに対する支援政策等の実態ならびにそれらに関する研究についてのレビュー等をおこない、その一部を学会報告や論文等において公表した。</p>	
学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）	
<p>有川碧・藤井吉祥・宮島基・安達暉・遠藤康裕・大岸正樹・児島功和・杉田真衣・西村貴之・渡辺大輔・乾彰夫「個別化・不安定化する若者の移行とネットワーク—高卒三年間の経年的インタビューを通して—」日本教育学会第66回大会（慶應義塾大学）、2007年8月29日 岩崎正吾「ロシア連邦のキャリア教育・職業指導の展開—ウラジオストク市及びハバロフスク市における実態調査を中心として—」日本学習社会学会第4回大会（常葉学園大学）、2007年9月8日</p>	
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）	
<p>乾彰夫「不安定化する若者と生活指導の課題—不安定・危機の共通性と多様性—」日本生活指導学会『生活指導研究』第24号、エイデル研究所、2007年9月 Inui, A. & Nishimura, T., The Only Future Certainty is that I' ll Still be Speaking to her: Social Capital/Network for the Transition of Disadvantaged Young People, Educational Studies in Japan: International Yearbook, No. 2, 12/2007. 乾彰夫「不安定化する若者をめぐる状況の性格と日本の特徴—失業・非正規雇用と労働市場規制—」首都大学東京・東京都立大学教育学研究室『教育科学研究』23号、2008年3月 岩崎正吾「ロシア連邦のキャリア教育・職業指導の展開と課題」科学研究費最終報告書『ロシア連邦のキャリア教育に関する総合的調査研究』（基盤研究B海外学術調査）、2008年3月</p>	